

令和8年 第2回ボランティア交流会 報告

茅野市こども読書活動応援センター

📅 日時：令和8年9月17日（木）10：00～12：00

📍 場所：茅野市図書館 2階会議室

👤 参加者：11名

👤 山田教育長 挨拶

ボランティアの皆さん、園や小中学校での読み聞かせをしていただき、ありがとう。

言葉には、「読む」「話す」「聞く（聴く）」「書く」の4つがある。児童文学家の松居直さんは『読書の森づくりー子育ては本との出会いから 茅野市の実践ー』の序文の文章の中で、ことばとの使い方に大変気をつけている。例として、人間の体を表現する言葉について、1行目は「肉体」で5行目は「身体」と文章の内容によって使う言葉を変えている。

皆さんが行っている読み聞かせについては、自分の解釈を入れずに、感情を込めすぎずに読むのが良いといわれているが、読んでいる人の生き方は自然とにじみ出てくると思う。今はAIが発達してきているので、AIに「少しざわついている1年生の教室で、児童を落ち着かせるような読み方で読んでほしい」と指示すると、指示通りの回答が出てくる。でも、AIの読み聞かせには人の生き方は入っていない、AIの読み聞かせは本当にいいのか、と思う。

今回挨拶するにあたり、松居さんの文章を探した。AIに聞けばどの本のどこに載っているのかすぐに答えが出てくるかもしれないが、自分で探して見つけた時の嬉しさとは違う。

朝の読み聞かせに原点がある。皆さんの活動は子どもたちに生きる力を与えている、これからも活動の継続をお願いしたい。

📋 内容報告

1 情報交換

3～4人の小グループに分かれて情報交換を行いました。まず、参加者からの質問について話し合い、その後、活動状況を話したりやその中で感じている質問について話し合ったりしました。

<参加者からの質問>

読み聞かせ中、相槌やお話をしていいのか？こどもたちに「これなあに？」とか聞かれた場合の対処法。基本的には、みんな物語に没頭できるように、ひたすら読み続けたほうがいいのかなと思い、絵本に集中するようにしているけども、それでいいのか？

<各グループからの回答>

- ・「これなあに？」の内容によって対処する。
本の内容やすぐにこたえられるものは、その場でこたえる。
本の内容に関係のないことやすぐにこたえられないものは、声を出した子を見て「受け止めたよ」と目で合図を送り、読み続け、終わった後に説明する
- ・読み始める前に、本の内容で難しい言葉や聞きなれない言葉があり、本の内容にかかわる場合は、読み



始める前に説明する。

・かけあいがある内容の本は、子どもの声を聴きながら読む。

<その他情報交換で出た内容>

○「読み聞かせ」or「読み語り」?

・「読み聞かせ」という言い方に抵抗があるとの話が出た。その中で、「読み聞かせ」は一方的で、「読み語り」は聞いた側(子ども)の考えを引き出せるとの話があった。

○学校とボランティアの交流はどうしている?

- ・読み聞かせ後に、ボランティアが読んだ本を発表しあっている。校長・教頭・司書教諭も一緒に参加して聞いている。
- ・先生方ともっと交流したい。

○ボランティア同士、読んだ本のリスト交換をしたい。

- ・読んだ本のリストを交換しあえれば、読み聞かせの幅が広がるのではないか。

○グループ内の情報共有の方法は?

- ・年度初めに集まって担当クラス割を決定。読んだ本の共有はグループLINEで行っている。

○選書はどうしたらよい?

- ・『読み聞かせのきほんー保育園・幼稚園・学校での実践ガイド』(東京子ども図書館 編集出版:東京子ども図書館)などのリストを参考にしたらどうか。
- ・第1回ボランティア交流会で配布した、「おはなしくれよん」メンバーが読み聞かせした本のリストも参考になる。
- ・読み聞かせボランティアのために「読書の森 読りーむ in ちの」が開設した博報文庫の本は、読み聞かせに活用できる本が多くあるので、利用してほしい。博報文庫の本は、こども読書活動応援センター内にある。利用時は、図書館のカウンター職員に声をかけてほしい。

○読み聞かせを長く続けた効果は?

- ・園や学校で長く読み聞かせを聞いてきた子どもは、(読み聞かせを続けて聞いていない子どもと比べて)自分で想像して動ける子どもが多い気がする。読み聞かせを長く続けると、自分で考える力が養えるのではないかと感じている。

～感想より～

- ・様々なボランティアの方のお話が聞けて良かったです。
- ・読み聞かせをする際の「こうしたほうがいいよ」とか、普段は誰に聞いたらよいかわからないことを読み聞かせのベテランの方に教えてもらえました。
- ・すごく勉強になりました。目からウロコの情報をたくさんいただきました。
- ・久しぶりに参加して改めて読み聞かせの大切さとやり方を学ばせていただいた。また、それぞれの読み聞かせの思いを聞くことにより、「ハッ」と思うことがありました。
- ・読み聞かせを始めたばかりという方がいて、ボランティアをしている人の現場の話を中心に、いろいろ情報が得られて良かったです。
- ・ほかの皆さんの様子が知れて良かったです。
- ・読み聞かせボランティア3年目の方もしっかりした使命感のもとに活動をされていて頼もしいなと感じました。
- ・学校ボランティアの共有ができました。
- ・とても大切なことを教えていただき、深く反省した。実りある会でした。
- ・いろいろ話を聞いてうらやましい気持ち、残念な気持ちになりました。

2 読み聞かせ会

情報交換で打ち解けた同士、持参した本をお互いに読みあいました。その後、読み聞かせの感想を伝えたり、読み聞かせのより良いやり方などを伝え合ったりしました。



読み聞かせ会で参加者が読んだ本のリスト

書名	著者名 等	出版社名
どうしてパパとけっこんしたの？ どうぶつたちそれぞれのこたえ	桃戸栗子／作	福音館書店
バレエのおけいこ	石津ちひろ／文 庄野ナホコ／絵 篠原久美子／バレエ監修	ブロンズ新社
やさしさとおもいやり	宮西 達也／作・絵	ポプラ社
地球をほる	川端誠／作	B L 出版
木を植えた男	ジャン・ジオノ／原作 フレデリック・バック／絵 寺岡襄／訳	あすなろ書房
トラのじゅうたんになりたかった トラ	ジェラルド・ローズ／文・絵 ふしみみさを／訳	岩波書店
ぱくぱくはんぶん	渡辺鉄太／ぶん 南伸坊／え	福音館書店
たろうのおでかけ	村山桂子／作 堀内誠一／画	福音館書店
バルバルさん	乾栄里子／文 西村敏雄／絵	福音館書店
そばがらじさまとまめじさま	小林輝子／再話 赤羽末吉／画	福音館書店
おかえし	村山桂子／さく 織茂恭子／え	福音館書店
だいふくもち	田島征三／さく・え	福音館書店



～感想より～

- ・大変学びがありました。きいていてすごく楽しかったです。
- ・絵がきれいな本を読みました。
- ・読み聞かせの基本を教えてくださいました。うれしかったです。
- ・ほかの人の読み聞かせを見て勉強になりました。
- ・以前注意されたことを意識してやりました。いろいろ注意していただき、学びとなりました。

3 今後のボランティア交流会について 要望・意見など

- ・各学校で読んだ本のリスト交換はいいアイデアだと思います。
- ・他の小学校の方のボランティアさんたちとお話がしてみたいです。
- ・大変貴重で有意義な時間だったので、たくさんの人が参加できるといいなと思いました。
- ・ほかのボランティアの方々の情報交換できる場でよいと思いますが、もっとたくさんボランティアをされている方がいるはず…と思います。
- ・人数が少ないとそれなりに良いこともあるのですが、もう少し人が集まると良いなと思いました。



4 その他

講談社「本」とあそぼう全国訪問おはなし隊の実施について

講談社が主催する全国訪問おはなし隊のキャラバンカーが10月に長野県を巡回します。茅野市内では、10/13(火)北山地区コミュニティセンターと10/26(月)ちの地区コミュニティセンターの2カ所で実施することになりました。

おはなし隊の対象は子どもとその保護者になりますが、550冊の絵本を積んだキャラバンカーやおはなし会を見学いただくことで、今後のボランティア活動の参考にさせていただきますよう、ご案内させていただきます。

詳細は、添付した資料をご覧ください。

以上